

令和7年度野菜・果実の消費拡大支援委託事業

規制のサンドボックス制度（新技術等実証制度）の成果物

「直販所や量販店の野菜・果実の栄養素の一般的な
機能性・特徴表示に関する POP 表示マニュアル」
の普及活動

取組内容報告書

令和8年2月

一般社団法人 食品機能推進協会

—目次—

第1	事業概要	1
第2	研修等の実施状況.....	2
第3	研修受講企業別のPOP表示の取組内容	4
第4	推定野菜摂取量の測定結果	8
第5	消費者向けアンケート実施結果	10
第6	事業実施評価のまとめ.....	16
	(添付資料) アンケート票 (様式)	17

第 1 事業概要

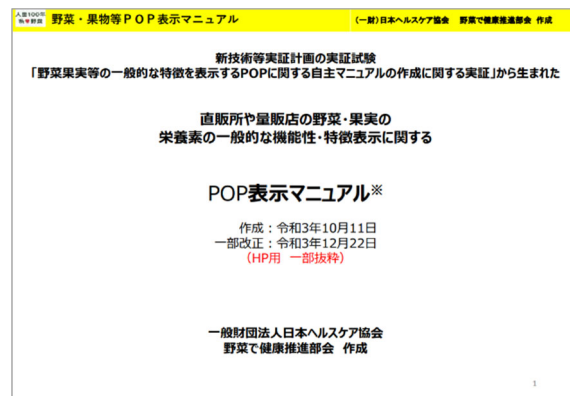
1 事業名

令和 7 年度野菜・果実の消費拡大支援委託事業

2 事業目的

野菜・果実の 1 人 1 日当たりの摂取量の平均値（令和 6 年・20 歳以上）は野菜 258.7g、果実 79.4g で、「健康日本 21（第三次）」（厚生労働省告示）等で目標とする野菜 350g、果実 200g にいずれも達しておらず、1 人当たりの野菜・果実の摂取量を増加させることが課題となっている。

本事業は、規制のサンドボックス制度（新技術等実証制度）の成果物「直販所や量販店の野菜・果実の栄養素の一般的な機能性・特徴表示に関する POP 表示マニュアル」（以下「POP 表示マニュアル」という。）の普及に向け、大消費地である主要都市の小売店において、POP 表示マニュアルを踏まえた適切な表示に係る実践的研修（表示規則やアピール手法、POP 表示の実践等）を実施するとともに、適切な POP 表示による野菜・果実の消費拡大の効果検証を実施し、もって店舗での適切な POP 表示と消費者の野菜・果実の栄養に関する理解促進及び消費拡大を図ることを目的に行うものである。



(直販所や量販店の野菜・果実の栄養素の
一般的な機能性・特徴表示に関する
POP表示マニュアル)

3 事業期間

令和 7 年 6 月 5 日から令和 8 年 2 月 27 日まで

4 業務内容

主要 2 都市（東京都・大阪府）において、POP 表示マニュアルを用いて小売店に対する研修を実施した。また、受講者の実店舗における POP 表示の取組をサポートするとともに、POP 表示の取組内容等を把握した。

さらに、POP 表示を実施した実店舗において、POP 表示の効果等を把握するため、

野菜摂取量評価装置を用いて、店頭でのPOP表示期間前後における消費者の推定野菜摂取量の変化を記録した。さらに、消費者向けに野菜・果物の購入に対する意識の変化等に関するアンケートを実施した。

第2 研修等の実施状況

1 概要

	概要	
企業名	株式会社スーパーアルプス	不二商事株式会社
実施店舗	スーパーアルプス西八王子駅前店	トップワールド香里園店
所在地	東京都八王子市	大阪府寝屋川市
実施状況	<R7年> 10/15 幹部向け研修（5名） 11/5～7 消費者の推定野菜摂取量測定（1回目） 11/6 店舗向け研修（2名） 11/7 保健所説明 <R8年> 1/14～16 消費者の推定野菜摂取量測定（2回目）	<R7年> 7/21 幹部向け研修（4名） 10/6 店舗向け研修（4名） 10/6～10/8 消費者の推定野菜摂取量測定（1回目） 10/7 保健所説明 12/3～12/5 消費者の推定野菜摂取量測定（2回目）

※保健所説明について

店舗で実際にPOP表示を始めるにあたり、事前に、POP表示マニュアルをもとに作成・掲示したPOPであることについて、管轄する保健所に対して説明を行うことで、研修を行った小売店が継続的にPOP表示を行いやすい環境づくりをサポートする目的で行った。

2 研修内容

POP表示マニュアルをもとに、日本における野菜・果物の摂取量についての現状、事業の背景等を含め、法律に基づく表示にあたっての規制の内容や、POPへの記載、表示する際の注意点等を説明し、質疑応答等を通じて理解を深めた。

さらに、幹部向け研修では、実際に対象とする品目の検討や取組に際しての実践的な指導を行い、店舗向け研修では、検討したPOPの実際の掲示にあたっての注意点等の説明や助言を行った。

3 野菜摂取量の測定会の実施

POP表示の取組の効果を把握するため、POP表示を実施した店舗において、消費者向けに推定野菜摂取量の測定（ベジメータ®SEを用いた皮膚カロテノイドの測定によ

る推定野菜摂取量評価)を行った。測定はPOP表示期間の前後に1回ずつ行い、POP表示による推定野菜摂取量の変化を検証した(詳細は第4 推定野菜摂取量の測定実施結果に記載)。



推定野菜摂取量の評価に使用した ベジメータ®SE
(測定者の推定野菜摂取量をベジレベルとして数値化して表示)

<ベジレベル™判定基準>

- S判定：ベジレベル™560以上 素晴らしい値です
- A判定：ベジレベル™500～550 非常に良い値です(推定野菜摂取量350g/日以上)
- B判定：ベジレベル™420～490 頑張っています
- C判定：ベジレベル™350～410 日本人の平均値ですが、まだ少し不足気味です
- D判定：ベジレベル™300～340 野菜不足気味です
- E判定：ベジレベル™290以下 非常に野菜が不足しています

4 消費者向けのアンケートの実施

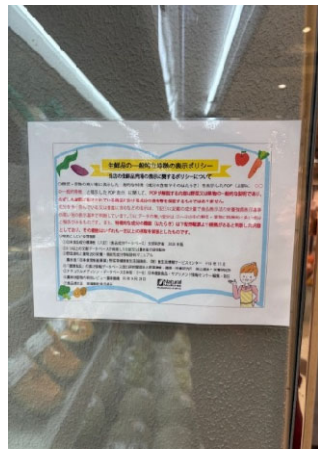
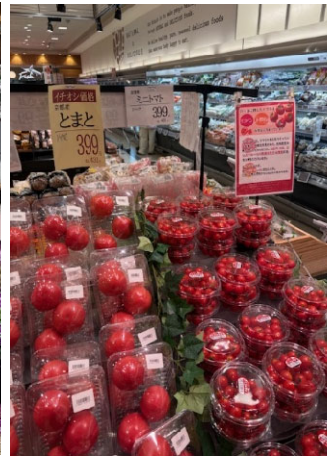
POP表示の取組の効果を把握するため、POP表示を実施した店舗において、消費者向けにアンケートを行った(詳細は第4 消費者向けアンケート実施結果に記載)。

第3 研修受講企業別のPOP表示の取組内容 (POP表示実施：2社2店舗)

1 不二商事株式会社

実施店舗数	1店舗
実施店舗名	トップワールド香里園店
POP表示品目(数)	9品目(にんじん、ほうれん草、トマト、ブロッコリー、白菜、いちご、温州ミカン、リンゴ、かぼちゃ)のPOPを掲示した(POP表示数は計9点)
POP	        


POP表示・
店舗の様子



2 株式会社スーパーアルプス

実施店舗数	1 店舗
実施店舗名	スーパーアルプス西八王子駅前店
POP表示品目 (数)	15品目 (きのこ、キャベツ、さつまいも、じゃがいも、玉ねぎ、トマト、にんじん、ねぎ、ブロッコリー、ほうれん草、白菜、いちご、りんご、柿、みかん) のPOPを掲示した (POP表示数は計15点)
POP	<div data-bbox="414 660 790 918"> <p>きのこ類 (しいたけ・しめじ・えのき・まいたけ・まいたけ等)</p> <p>ナイアシン ビタミンD が豊富に含まれています</p> <p>ナイアシンは、皮膚や粘膜の健康維持を助ける栄養素です。また、体内における脂質および糖質の代謝を促し、細胞を正常な状態に維持するために必要とされます。</p> <p>ビタミンDは、腸管でのカルシウムの吸収を促進し、骨の形成を助ける栄養素です。牛乳1杯を30分ほど日光に当てると、ビタミンDが増えると言われています。</p> <p>食品には、ま늘、豆類、卵黄を基に、食品のパラシチス。納豆の摂取を促して自分の健康状態を知りましょう。いんらん野菜を1日3回 食べましょう。(公開) 日本ヘルスケア協会 野菜で健康推進委員会 監修</p> </div> <div data-bbox="821 660 1197 918"> <p>キャベツには</p> <p>ビタミンC ビタミンK を多く含んでいます。</p> <p>ビタミンCは水溶性のビタミンで、皮膚や粘膜の健康維持を助けるとともに、抗酸化作用を持つ栄養素です。</p> <p>ビタミンKは正常な血液凝固能を維持するとともに、骨形成などの重要な働きに必要とされます。</p> <p>食品には、ま늘、豆類、卵黄を基に、食品のパラシチス。納豆の摂取を促して自分の健康状態を知りましょう。いんらん野菜を1日3回 食べましょう。(公開) 日本ヘルスケア協会 野菜で健康推進委員会 監修</p> </div> <div data-bbox="414 940 790 1198"> <p>さつまいもには</p> <p>ビタミンC ビタミンB1,B6 食物繊維などを多く含みます。</p> <p>ビタミンCは水溶性のビタミンで、主な働きとして、コラーゲンの生成促進や抗酸化作用があると期待されています。</p> <p>ビタミンCは、免疫機能を正常な状態に維持するために重要な役割を果たします。かんしょに含まれるビタミンCは、他の野菜や果物と異なり比較的安定で、1年を過ぎて食すことができるため、良いビタミンC供給源といえます。</p> <p>食品には、ま늘、豆類、卵黄を基に、食品のパラシチス。納豆の摂取を促して自分の健康状態を知りましょう。いんらん野菜を1日3回 食べましょう。(公開) 日本ヘルスケア協会 野菜で健康推進委員会 監修</p> </div> <div data-bbox="821 940 1197 1198"> <p>じゃがいもは</p> <p>ビタミンC ビタミンB6 を多く含んでいます。</p> <p>ビタミンCは水溶性のビタミンで、皮膚や粘膜の健康維持を助けるとともに、抗酸化作用を持つ栄養素です。</p> <p>ビタミンB6は、たんぱく質からのエネルギー産生と皮膚や粘膜の健康維持を助けると言われています。</p> <p>食品には、ま늘、豆類、卵黄を基に、食品のパラシチス。納豆の摂取を促して自分の健康状態を知りましょう。いんらん野菜を1日3回 食べましょう。(公開) 日本ヘルスケア協会 野菜で健康推進委員会 監修</p> </div> <div data-bbox="414 1220 790 1478"> <p>玉ねぎは、ポリフェノールの一種である</p> <p>ケルセチン が含まれています</p> <p>ケルセチンとは、野菜や果物に広く存在し、特にたまねぎに多く含まれる黄色の色素です。</p> <p>強い抗酸化作用があり、活性酸素の働きを抑えるといわれています。</p> <p>食品には、ま늘、豆類、卵黄を基に、食品のパラシチス。納豆の摂取を促して自分の健康状態を知りましょう。いんらん野菜を1日3回 食べましょう。(公開) 日本ヘルスケア協会 野菜で健康推進委員会 監修</p> </div> <div data-bbox="821 1220 1197 1478"> <p>真っ赤に熟したトマトは</p> <p>リコペン β-カロテン を多く含んでいます。</p> <p>リコペンは、トマトの赤みをつくっている色素で、抗酸化作用があり、活性酸素の働きをおさえるとされ、血圧やLDLコレステロールの増加を抑える働きがあると報告されています。</p> <p>β-カロテンとは、体内でビタミンAに変化します。※油と一緒に摂取すると吸収率が高まります。</p> <p>食品には、ま늘、豆類、卵黄を基に、食品のパラシチス。納豆の摂取を促して自分の健康状態を知りましょう。いんらん野菜を1日3回 食べましょう。(公開) 日本ヘルスケア協会 野菜で健康推進委員会 監修</p> </div> <div data-bbox="414 1500 790 1758"> <p>ニンジンには</p> <p>β-カロテン が豊富な緑黄色野菜の一つです。</p> <p>β-カロテンは、体内でビタミンAに変化します。ビタミンAは、夜間の視力の維持を助け、皮膚や粘膜の健康維持を助けると共に免疫システムなど多くの器官の適切な発達、機能に必要な栄養素です。</p> <p>β-カロテンは抗酸化作用があり、活性酸素の働きをおさえるとされています。</p> <p>食品には、ま늘、豆類、卵黄を基に、食品のパラシチス。納豆の摂取を促して自分の健康状態を知りましょう。いんらん野菜を1日3回 食べましょう。(公開) 日本ヘルスケア協会 野菜で健康推進委員会 監修</p> </div> <div data-bbox="821 1500 1197 1758"> <p>ねぎには</p> <p>葉酸 マグネシウム などが含まれています</p> <p>葉酸とはビタミンの一種で、赤血球の形成を助ける栄養素であり、欠乏すると悪性貧血になります。また妊婦では胎児の正常な発育に寄与する栄養素です。</p> <p>マグネシウムは、骨の形成に必要で、多くの体内酵素の正常な働きとエネルギー産生を助けるとともに、血圧調節を正常に保つのに必要な栄養素です。</p> <p>食品には、ま늘、豆類、卵黄を基に、食品のパラシチス。納豆の摂取を促して自分の健康状態を知りましょう。いんらん野菜を1日3回 食べましょう。(公開) 日本ヘルスケア協会 野菜で健康推進委員会 監修</p> </div> <div data-bbox="414 1780 790 2038"> <p>ブロッコリーは</p> <p>ビタミンC 葉酸 を多く含んでいます。</p> <p>ビタミンCは水溶性のビタミンで、皮膚や粘膜の健康維持を助けるとともに、抗酸化作用を持つ栄養素です。</p> <p>葉酸とはビタミンの一種で、赤血球の形成を助ける栄養素であり、欠乏すると悪性貧血になります。また妊婦では胎児の正常な発育に寄与する栄養素です。</p> <p>食品には、ま늘、豆類、卵黄を基に、食品のパラシチス。納豆の摂取を促して自分の健康状態を知りましょう。いんらん野菜を1日3回 食べましょう。(公開) 日本ヘルスケア協会 野菜で健康推進委員会 監修</p> </div> <div data-bbox="821 1780 1197 2038"> <p>葉物野菜類 (ほうれん草、小松菜、チンゲン菜、チンゲン菜)</p> <p>葉酸 ビタミンC が多く含まれています</p> <p>葉酸とはビタミンの一種で、赤血球の形成を助ける栄養素です。妊婦では胎児の正常な発育に寄与する栄養素です。</p> <p>ビタミンCは水溶性のビタミンで、皮膚や粘膜の健康維持を助けるとともに、抗酸化作用を持つ栄養素です。</p> <p>食品には、ま늘、豆類、卵黄を基に、食品のパラシチス。納豆の摂取を促して自分の健康状態を知りましょう。いんらん野菜を1日3回 食べましょう。(公開) 日本ヘルスケア協会 野菜で健康推進委員会 監修</p> </div>

白菜には
ビタミンC **食物繊維** が豊富に含まれています



ビタミンCは水溶性のビタミンで、主な働きとして、コラーゲンの生成促進や抗酸化作用があると期待されています。

水溶性食物繊維は、コレステロールの吸収を抑制する、グルコースの吸収を穏やかにする、不溶性食物繊維は、「他のかきを用やす」「腸内環境を良くする」などの報告があります。

※食品には、主成分、添加物を除き、食品のパラフィン、植物由来の着色料や香料を含まない。いんげん野菜を100%食べましょう。
(出典) 日本ヘルスケア協会 野菜で健康維持委員会 監修


柿は、果実や葉にタンニン(渋み)と
ビタミンC が含まれています



ビタミンCは水溶性のビタミンで、皮膚や細胞の健康維持を助けるとともに、抗酸化作用を持つ栄養素です。柿に含まれるビタミンCは、みかんなどの柑橘類の約2倍、ビーマンとはほぼ同等含まれています。

※食品には、主成分、添加物を除き、食品のパラフィン、植物由来の着色料や香料を含まない。いんげん野菜を100%食べましょう。
(出典) 日本ヘルスケア協会 野菜で健康維持委員会 監修

りんごには、
食物繊維 (ペクチン) が多く含まれています



りんごには多くのポリフェノールが含まれていますが、その中でも水分であるペクチンには、血糖値を緩やかに下げる働きが報告されています。

皮の部分に多く含まれるウルソール酸には、腸内菌の調整や代謝に重要な役割があると報告があります。

※食品には、主成分、添加物を除き、食品のパラフィン、植物由来の着色料や香料を含まない。いんげん野菜を100%食べましょう。
(出典) 日本ヘルスケア協会 野菜で健康維持委員会 監修

みかんにはビタミンC、β-カロテン、ヘスペリジン、リモネン
など含まれ、
特に温州みかんには **β-クリプトキサンチン** が多く含まれています




ビタミンCは、水溶性のビタミンで、主な働きとして、コラーゲンの生成促進や抗酸化作用があると期待されています。また免疫機能を正常な状態に維持するために重要な役割を果たします。

含有量は果物の中でも上位に入ります。

葉酸とは、ビタミンの一種で、欠乏すると悪性貧血になります。胎児の神経管の発育に必要な成分です。

※食品には、主成分、添加物を除き、食品のパラフィン、植物由来の着色料や香料を含まない。いんげん野菜を100%食べましょう。
(出典) 日本ヘルスケア協会 野菜で健康維持委員会 監修

いちごには、
ビタミンC **葉酸** が含まれています

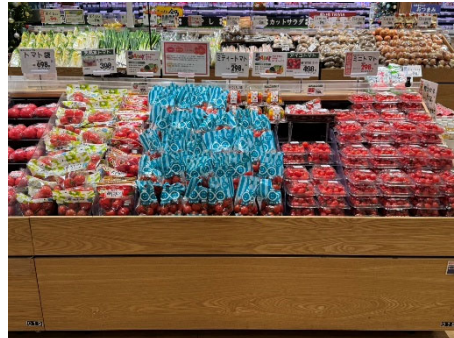


ビタミンCは、水溶性のビタミンで、主な働きとして、コラーゲンの生成促進や抗酸化作用があると期待されています。また免疫機能を正常な状態に維持するために重要な役割を果たします。含有量は果物の中でも上位に入ります。

葉酸とは、ビタミンの一種で、欠乏すると悪性貧血になります。胎児の神経管の発育に必要な成分です。

※食品には、主成分、添加物を除き、食品のパラフィン、植物由来の着色料や香料を含まない。いんげん野菜を100%食べましょう。
(出典) 日本ヘルスケア協会 野菜で健康維持委員会 監修

POP表示・
店舗の様子



第4 推定野菜摂取量の測定結果

1 トップワールド香里園店 1回目 (2025年10月6日～8日実施)

- ・測定人数278名
- ・最高ベジレベル™680 (推定野菜摂取量476g/日)
- ・最低ベジレベル™100 (推定野菜摂取量70g/日)
- ・平均ベジレベル™349 (推定野菜摂取量244g/日)

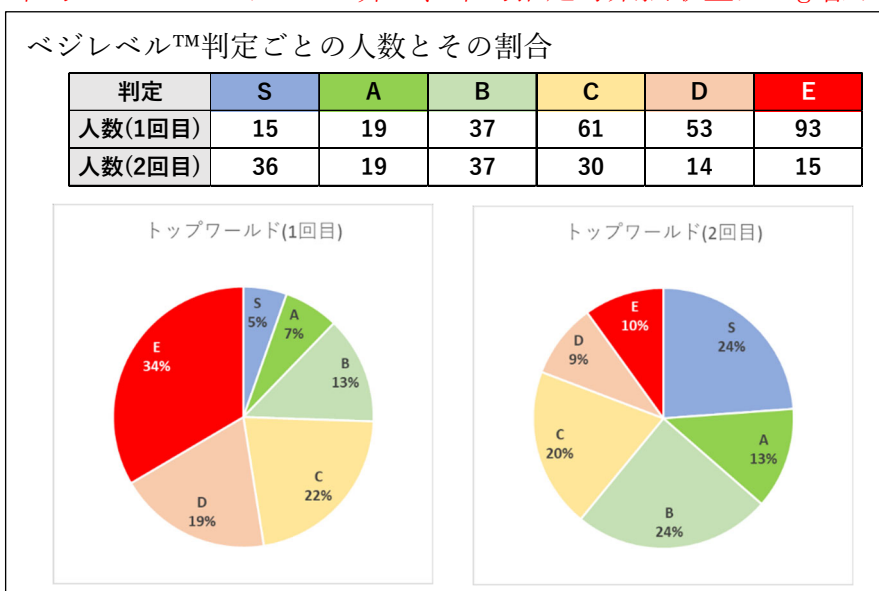
平均ベジレベル™から推定される平均野菜摂取量244g/日は、
 全国の平均野菜摂取量258.7g/日より14.7g低い
 平均野菜摂取量の目標値350g/日より106g低い

2 トップワールド香里園店 2回目 (2025年12月3日～5日実施)

- ・測定人数151名
- ・最高ベジレベル™780 (推定野菜摂取量546g/日)
- ・最低ベジレベル™230 (推定野菜摂取量161g/日)
- ・平均ベジレベル™459 (推定野菜摂取量321g/日)

平均ベジレベル™から推定される平均野菜摂取量321g/日は、
 全国の平均野菜摂取量258.7g/日より62.3g高い、
 平均野菜摂取量の目標値350g/日より29g低い

初回と2回目を比較すると、
 平均ベジレベル™は110上昇し、平均推定野菜摂取量は77g増加した。



<ベジレベル™判定基準>

- S判定：ベジレベル™560以上 素晴らしい値です
- A判定：ベジレベル™500～550 非常に良い値です (推定野菜摂取量350g/日以上)
- B判定：ベジレベル™420～490 頑張っています
- C判定：ベジレベル™350～410 日本人の平均値ですが、まだ少し不足気味です
- D判定：ベジレベル™300～340 野菜不足気味です
- E判定：ベジレベル™290以下 非常に野菜が不足しています

3 スーパーアルプス西八王子駅前店 1回目 (2025年11月5日～7日実施)

- ・測定人数141名
- ・最高ベジレベル™840 (推定野菜摂取量588g/日)
- ・最低ベジレベル™160 (推定野菜摂取量112g/日)
- ・平均ベジレベル™399 (推定野菜摂取量279g/日)

平均ベジレベル™から推定される平均野菜摂取量279g/日は、
全国の平均野菜摂取量258.7g/日より20.3g高く、
平均野菜摂取量の目標値350g/日より71g低い。

4 スーパーアルプス西八王子駅前店 2回目 (2026年1月14日～16日実施)

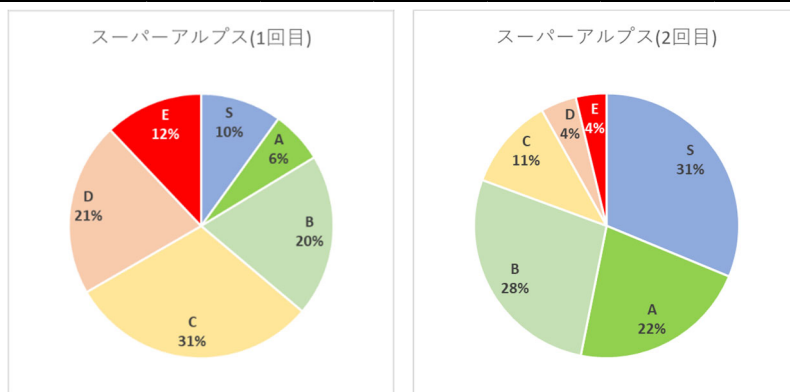
- ・測定人数160名
- ・最高ベジレベル™750 (推定野菜摂取量525g/日)
- ・最低ベジレベル™160 (推定野菜摂取量112g/日)
- ・平均ベジレベル™506 (推定野菜摂取量354g/日)

平均ベジレベル™から推定される平均野菜摂取量354g/日は、
全国の平均野菜摂取量258.7g/日より95.3g高く、
平均野菜摂取量の目標値350g/日より4g高い。

初回と2回目を比較すると、
平均ベジレベル™は107上昇し、平均推定野菜摂取量は75g増加した。

ベジレベル™判定ごとの人数とその割合

判定	S	A	B	C	D	E
人数(1回目)	14	9	28	43	30	17
人数(2回目)	50	35	44	18	7	6



5 総括

POP表示を実施した2店舗において、POP表示前後の来店者の平均ベジレベルを比較すると、表示した後の方が高かった。アンケート結果からも「前回測定した」と回答した対象者のうち90%にスコアの改善が見られた。あくまでそれぞれの測定実施日に来店した人の平均点であり、完全に同じ測定者群の追跡比較はできなかったものの、POP表示により野菜の購入意欲が増した可能性が考えられる。

第5 消費者向けアンケート実施結果

1 アンケート内容

- ・回答者属性（性別、年齢）
- ・「野菜・果物の機能性成分」の関心度
- ・「野菜・果物の機能性成分」を意識した購入経験
- ・野菜・果物のPOP表示による購入意欲の変化
- ・推定野菜摂取量の測定経験の有無
- ・推定野菜摂取量の測定スコアの変化
- ・「野菜の目標摂取量/日は350g」、「果物の目標摂取量/日は200g」の認知度

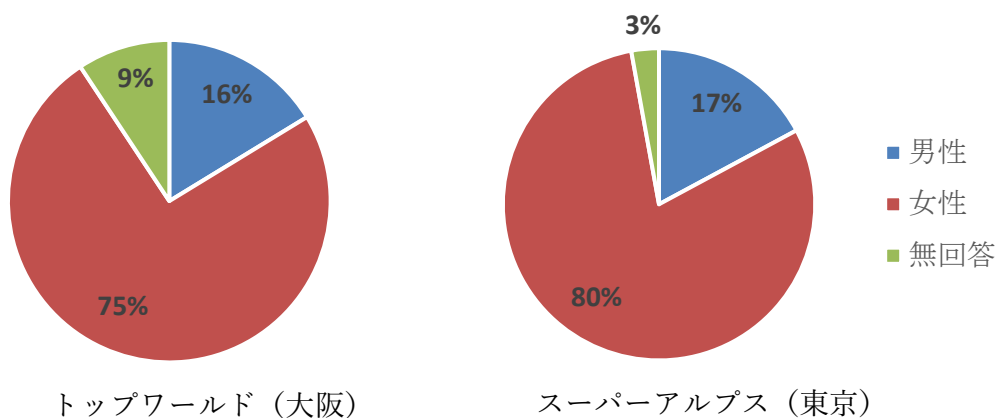
2 アンケート実施店舗

- ・トップワールド香里園店（2025年12月3日～5日実施）
- ・スーパーアルプス西八王子駅前店（2026年1月14日～16日実施）

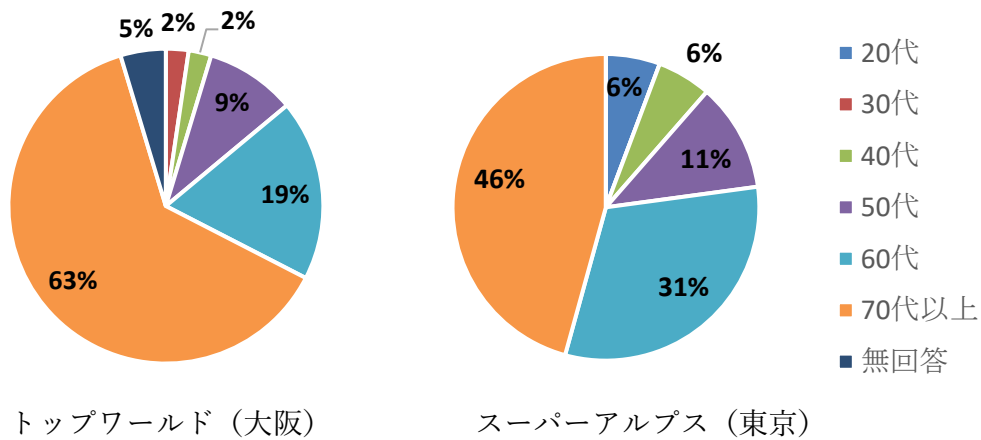
3 アンケート回答状況

アンケートの回答者数は、トップワールド香里園店で43名、スーパーアルプス西八王子駅前店で35名、計78名であった。回答者の性別・年齢をグラフ1、グラフ2に示す。

グラフ1 性別



グラフ2 年齢

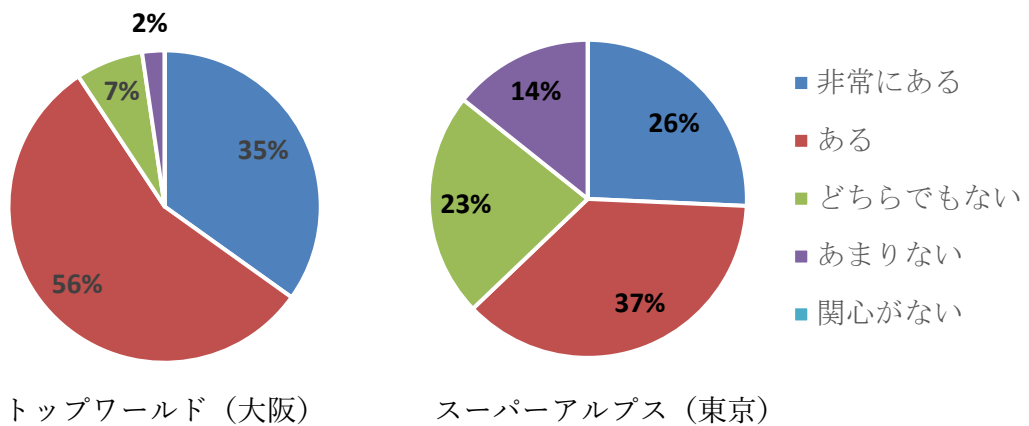


4 アンケート結果

① 「野菜・果物の機能性成分」の関心度

- ・トップワールド (大阪) では「非常にある」「ある」と回答したのは39名で91%であり、約9割が野菜・果物の機能性成分に関心があった。
- ・「あまりない」が1名 (2%) であり、「どちらでもない」が3名 (7%)、「関心がない」が0名 (0%) であった。
- ・スーパーアルプス (東京) では「非常にある」「ある」と回答したのは22名で63%であり、約6割が野菜・果物の機能性成分に関心があった。
- ・「あまりない」が5名 (14%) であり、「どちらでもない」が8名 (23%)、「関心がない」が0名 (0%) であった。

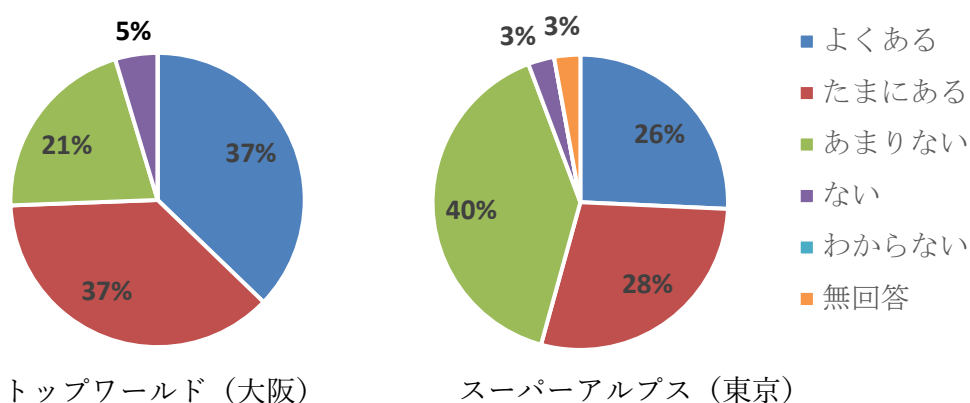
グラフ3 設問1 「「野菜・果物の機能性成分」に関心はありますか？」



② 「野菜・果物の機能性成分」を意識した購入経験

- ・トップワールド（大阪）では「よくある」「たまにある」と回答したのは32名で74%であり、設問1で野菜・果物の機能性成分に関心があると答えた割合よりも少なかった。
- ・「あまりない」が9名（21%）であり、「ない」が2名（5%）、「わからない」が0名（0%）であった。
- ・スーパーアルプス（東京）では「よくある」「たまにある」と回答したのは19名（54%）であり、設問1で野菜・果物の機能性成分に関心があると答えた割合よりも少なかった。
- ・「あまりない」が14名（40%）であり、「ない」が1名（3%）、「わからない」が0名（0%）であった。

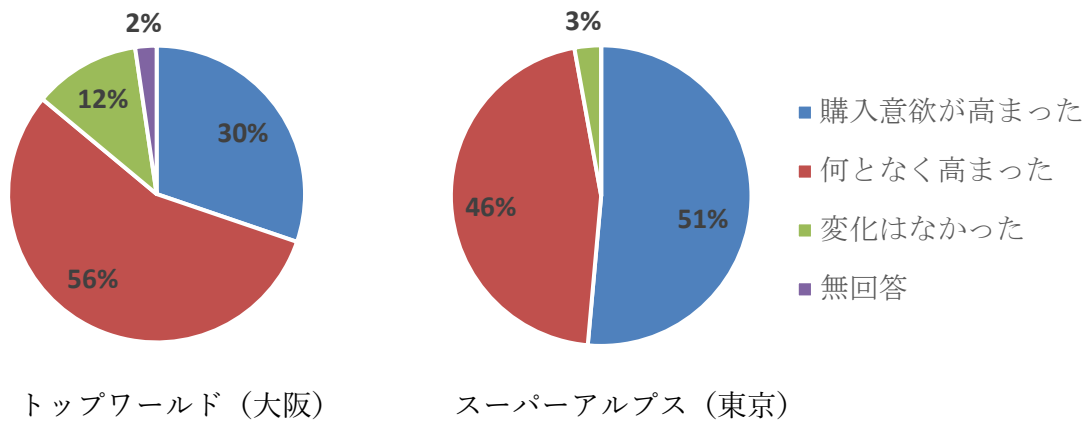
グラフ4 設問2 「「野菜・果物の機能性成分」を意識して購入した経験はありますか？」



③ 野菜・果物のPOP表示による購入意欲の変化

- ・トップワールド（大阪）では「購買意欲が高まった」が13名（30%）、「何となく高まった」が24名（56%）であり、8割以上が購買意欲の高まりを感じていた。
- ・「変化はなかった」は5名（12%）であった。
- ・スーパーアルプス（東京）では「購買意欲が高まった」が18名（51%）、「何となく高まった」が16名（46%）であり、回答者のほとんどが購買意欲の高まりを感じていた。
- ・「変化はなかった」は1名（3%）であった。

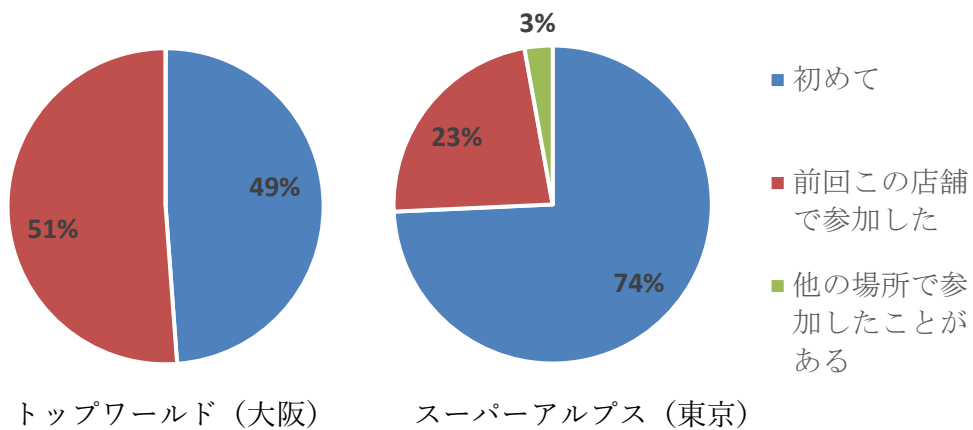
グラフ5 設問3 「「野菜・果物のPOP表示を見て、購入意欲は変化しましたか？」



④ 野菜摂取量の測定経験の有無

- ・トッパワールド (大阪) では「初めて」が21名 (49%) であり、「前回この店舗で参加した」が22名 (51%)、であった。
- ・スーパーアルプス (東京) では「初めて」が26名 (74%) であり、「前回この店舗で参加した」が8名 (23%) であった。また、「他の場所で参加したことがある」が1名 (3%) であった。

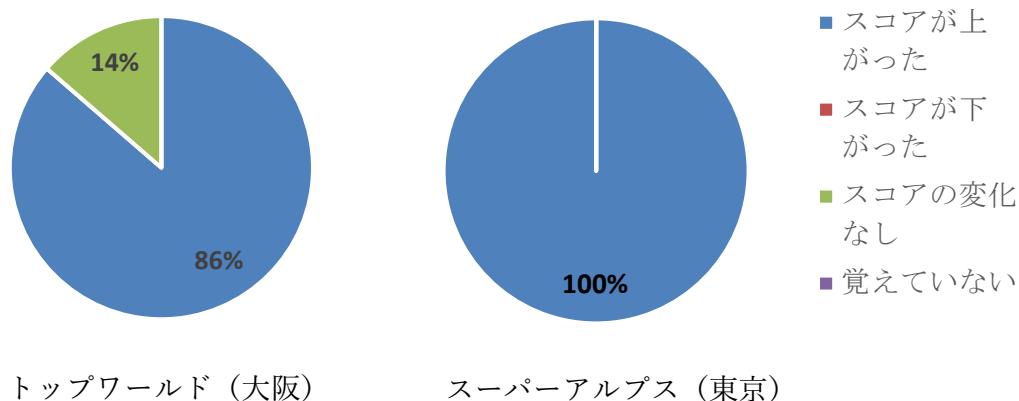
グラフ6 設問4 「野菜摂取量の測定は初めてですか？」



⑤ 野菜摂取量の測定スコアの変化

- ・トップワールド（大阪）では、上記設問4で「前回この店舗で参加した」と答えた22名のうち、「スコアが上がった」が19名（86%）、「スコアの変化なし」3名（14%）であった。
- ・スーパーアルプス（東京）では、上記設問4で「前回この店舗で参加した」と答えた8名のうち、「スコアが上がった」が8名（100%）であった。

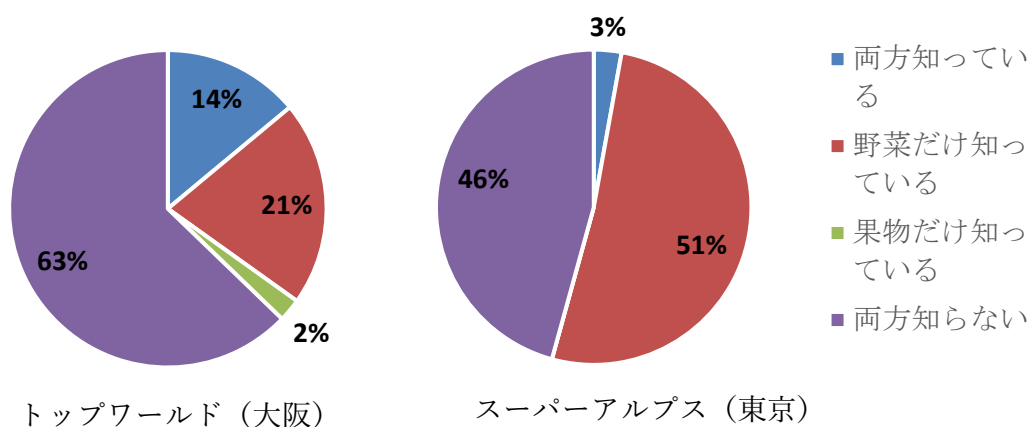
グラフ7 設問5「ベジレベルに変化がありましたか？
（設問4で「前回この店舗で参加した」と回答した方のみ）」



⑥ 「野菜の目標摂取量/日は350g」、「果物の目標摂取量/日は200g」の認知度

- ・トップワールド（大阪）では「両方知っている」は6名（14%）、「野菜だけ知っている」は9名（21%）、「果物だけ知っている」は1名（2%）、「両方知らない」は27名（63%）であった。
- ・スーパーアルプス（東京）では「両方知っている」は1名（3%）、「野菜だけ知っている」は18名（51%）、「果物だけ知っている」は0名（0%）、「両方知らない」は16名（46%）であった。

グラフ8 設問6 「「野菜の目標摂取量/日は350g」、「果物の目標摂取量/日は200g」であることはご存知ですか？」



5 総括

本アンケート結果から、78%が野菜・果物の機能性成分に関心があり、研修を踏まえ掲示したPOPに対して、92%がPOP表示によって購買意欲が高まったと回答した（グラフ5）。POP表示の前後に行った推定野菜摂取量の測定では、POP表示前後2回とも測定した30名のうち、27名（90%）が「スコアが上がった」と回答し、残りの3名は「変化はなかった」と回答した。すなわち、測定経験のある全ての回答者が野菜摂取量を維持または改善しており、減少した者はいなかった。推定野菜摂取量の測定そのものが、野菜摂取量改善への動機づけ効果をもつことに留意は必要であるが、POP表示による情報提供を行うことで、消費者が正しい知識を身につけることができ、それに伴い、野菜・果物の摂取量の増加が期待できることが示唆された。

さらに、「野菜の目標摂取量/日は350g」、「果物の目標摂取量/日は200g」の認知度については、回答者の半数以上である43名（55%）が「両方知らない」と回答した（グラフ8）。アンケート実施店舗および対象者は異なるものの、前年度の野菜・果物の消費拡大支援委託事業においても、半数近い回答者（49%）が「両方知らない」と回答したことを踏まえると、「野菜の目標摂取量/日は350g」、「果物の目標摂取量/日は200g」の認知度は上昇しておらず、目標値周知に向けたさらなる取組が必要であると考えられる。

第6 事業実施評価のまとめ

本事業は、「POP表示マニュアル」の普及に向け、主要2都市において、POP表示を行う小売店に対する表示規則やアピール手法等に関する研修を行い、もって店舗での適切なPOP表示と消費者の理解促進を図ることを目的に実施した。

本事業では、2都市の2社2店舗において研修を行い、研修会を踏まえ各店舗で実施したPOP表示は計24点となった。

研修の参加者からは、「研修でPOP表示の方法について学ぶことができたため、自信をもって野菜・果物の効果を消費者に伝えることができる」、「健康意識の高い消費者に向けた新しいサービスとして重宝する」等の感想があり、これまで実施が困難だった青果物の栄養・機能性の情報発信ができるようになったことで、従前とは異なった手法で、青果物の消費拡大にアプローチすることができ、今後の取組に向けての意欲が感じられた。

本年度の取組においては、野菜摂取量の測定および消費者アンケートの実施し、POP表示の効果を検証した。その結果、POP表示を実施した店舗における平均推定野菜摂取量は、表示開始後に増加する傾向が確認された。また、消費者アンケートにおいても、POP表示によって購買意欲が増すと意見が半数以上であった。これらの結果から、POP表示を通じた野菜・果物の栄養・機能性に対する消費者の理解促進に寄与し、ひいては野菜・果物の消費拡大につながっていくものと考えられる。

(添付資料) アンケート票 (様式)

令和7年度野菜・果物の機能性成分のPOP表示及び 野菜摂取量の測定会に関するアンケートシート

1. 「野菜・果物の機能性成分」に関心はありますか？
 非常にある ある どちらでもない あまり無い 感心が無い
2. 「野菜・果物の機能性成分」を意識して購入した経験はありますか？
 よくある たまにある あまりない ない わからない
3. 野菜・果物のPOP表示を見て、購入意欲は変化しましたか？
 購買意欲が高まった 何となく高まった 変化はなかった
4. 野菜摂取量の測定は初めてですか？
 初めて 前回この店舗で参加した 他の場所で参加したことがある
5. ベジレベルに変化がありましたか？(上記4番で「参加した」と回答した方のみ)
 スコアが上がった スコアの変化が無し
 スコアが下がった 覚えてない
6. 「野菜の目標摂取量/日は350g」、「果物の目標摂取量/日は200g」であることはご存知ですか？
 両方知っている 野菜だけ知っている 果物だけ知っている 両方知らない

性別： 男性 女性 年代： 10代 20代 30代 40代 50代 60代 70代以上

ご回答ありがとうございます♪
一般社団法人食品機能推進協会